

💡 偶然の発見と洞察力の
出会い

セレンディピティの 理解

偶然を成功へ導く力

🔄 予期せぬ価値の創出

🔄 失敗と機会の再解
釈

セレンディピティとは何か



偶然を成功へ導く力



偶然をつかみ幸運へと変える力



偶然による幸運の発見を生み出す能力



探していなかった貴重なものを見つける能力

「この発見は、私が偶然の発見（Serendipity）と呼ぶ種類のものにほぼ当たるのです……」

- ホレス・ウォルポール（Horace Walpole）、1754年

セレンディピティの起源と歴史

● 起源：ペルシアの寓話

『セレンディップの三人の王子』（The Three Princes of Serendip）

セレンディップ（現スリランカ）の三人の王子が旅をしながら、偶然と知恵によってさまざまな発見をする物語

📍 セレンディップ（Serendip）：古代スリランカのペルシア式の名称

● 1754年：ホレス・ウォルポール（Horace Walpole）の手紙

用語の最初の使用

イギリスの小説家ホレス・ウォルポールが友人のホレス・マン（Horace Mann）卿に宛てた手紙の中で初めて使用

「この発見は、私が偶然の発見（Serendipity）と呼ぶ種類のものにほぼ当たるのです。実に意味深い言葉ですが.....以前『セレンディップの三人の王子』という滑稽な童話を読みました。その王子たちは旅をする間、常に偶然と知恵によって発見をしていたのです。」

● 現代的な意味

概念の拡張

単なる偶然を超え、「準備された心」と「洞察力」が結びついた発見の意味へと拡張



科学、経営、芸術などさまざまな分野で革新の原理とし

セレンディピティの現代的な意味



偶然性の再発見

セレンディピティは、これまで扱われなかった、あるいは扱えなかった思いがけない出来事や偶然の出来事を重視して取り上げます。これは、理性的な情緒で物事を処理することに慣れた私たちの社会において、理性の外にあると見なされるものを考えるきっかけとなります。



非理性の理性的処理

セレンディピティは非理性的な領域の場合を含みながらも、その方策として合理的に納得できる理性的な代案を提示します。直観と偶然を認めつつ、これを体系的に活用する方法を示します。



普通の人々の成功可能性

セレンディピティで取り上げられる人物は、普通の人として自らの仕事に誠実に努力した人々です。特別な才能よりも、準備された姿勢と偶然を捉える能力こそが成功の鍵であることを示しています。

「天は自ら助くる者を助く」——セレンディピティは準備された者にのみ訪れる幸運です。

セレンディピティのポイント：偶然性

セレンディピティの意味は「思いがけない発見や発明」であり、その核心は偶然性にあります。偶然とは、既存の合理性の枠組みでは説明されなっただけで、生の中に重要な要素として常に存在してきました。哲学的には「因果律に基づかない性質」と定義されますが、セレンディピティでは「必然的偶然」「作られた偶然」という観点から再解釈されます。



守株待兎（しゅしゅたいと）

偶然に木の切り株にぶつかって死んだ兎を見つけた農夫が、農作業を捨てて兎ばかりを待った故事。偶然の出来事を活用できなかった事例であり、真のセレンディピティは偶然を成功へと結びつける能力にあることを示唆しています。



ハインリッヒの法則

重大事故1件：軽微な事故29件：ごく軽い事故300件の比率。大きな事故が起こる前に小さな兆候が存在するように、セレンディピティも準備と努力なしには生じません。1度の成功の前には多くの試みが必要です。



画竜点睛（がりょうてんせい）

竜の絵に最後に瞳を描き入ると竜が飛び去ってしまったという故事。決定的な瞬間の変化を意味し、99度の水に1度が加わって気体になるように、セレンディピティも準備された状態に決定的な要素が加わったときに生じます。

科学史におけるセレンディピティの事例

発見者	発見または発明	年	偶然の発見の特徴
 Columbus	新大陸 (New World)	1492	インドへの航路を探す途中、偶然にアメリカ大陸を発見
 Newton	万有引力の法則	1687	落ちる林檎を見て重力についての洞察を得る
 Röntgen	X線 (X-rays)	1895	陰極線管の実験中、偶然に蛍光スクリーンが光る現象を発見
 Fleming	ペニシリン (Penicillin)	1928	細菌の培養皿にカビが生え、周囲の細菌が死ぬ現象を発見
 Pasteur	ワクチン (Vaccination)	1878	弱毒化した病原体が免疫力を高めるという事実を偶然に発見
 Plunkett	テフロン (Teflon)	1938	冷媒ガスの実験中、ガスボンベ内部に生じた滑りやすい物質を発見

「科学的発見の歴史は、準備された者に訪れた偶然の瞬間で満ちている。」

現代企業におけるセレンディピティ



スターバックス

ハワード・シュルツがイタリア旅行中に偶然に体験したコーヒー文化（休息と交流の場）から着想を得て、スターバックスのビジネスモデルを開発



グーグル

共同創業者のセルゲイ・ブリンが「成功の第一の要因は幸運だ」と述べた。グーグルの革新的な製品は「20%タイム」政策を通じた偶然の発見から生まれた



フェイスブック

マーク・ザッカーバーグ：「フェイスブックには、思いがけない幸運であるセレンディピティの概念が込められている。」大学ネットワークサービスが世界的なソーシャルメディアへと進化



BMW

「今月の最も創意的な失敗賞」を選定し、創意的な失敗を奨励して失敗を革新の機会へと転換



ユニクロ

「1勝9敗」の経営哲学で社員の挑戦を奨励し、失敗を通じた学習とベンチャー精神を強調

セレンディピティの3つの特徴



長期的な過程と構造の重視

短期的な結果中心から脱し、長期的な努力と成功を導き出す「過程」と「構造」に焦点を合わせる。セレンディピティは画竜点睛（がりょうてんせい）のような状況で生じ、持続的な努力が臨界点に達したときに現れる。



多者の・多次元的な思考

二元論的な思考から脱した多角的な思考を提示する。天使と悪魔、善と悪の二分法的な構図ではなく、多次元的な思考を通じて偶然をもう一つの必然として解釈できる。東洋の伝統的な「和而不同（わじふどう）」の精神と軌を一にする。



持続的な挑戦精神

成功を限られた時間内に判断する単純な一つの出来事とは見なさず、持続的な過程として捉える。努力する者を一喜一憂の評価から自由にし、持続的な準備と挑戦を奨励する。失敗もかけがえのない資産と見なすシリコンバレーの哲学と一脈相通じる。

「天は自ら助くる者を助く (Heaven helps those who help themselves)」

結論および示唆点



セレンディピティの価値

セレンディピティは、理性的な判断だけでは解決されない複雑な現代社会において、重要な洞察の源泉です。偶然と直観が生み出す価値を再評価し、革新の扉を開きます。



私たちの生に及ぼす影響

失敗を恐れない挑戦的な態度、長期的な観点からの成功可能性、多次元的な思考方式を通じて、日常においても意味のある発見と達成を成し遂げることができます。



セレンディピティのための実践方策

- ① 失敗と過ちを記録し再解釈する
- ② 分野を越えて多様な知識を探索する
- ③ 持続的な努力と準備で「準備された偶然」を迎える

「天は自ら助くる者を助く」

セレンディピティは決して単に与えられる幸運ではなく、準備された者に訪れるもう一つの必然です。

セレンディピティの 拡張

東西の哲学・科学・創意性理論を統合し
た

『私・此処・今』のパラダイムから見たセ
レンディピティ

学術的発
表

2025年7月7
日

目次

1. セレンディピティ概念の紹介
2. セレンディピティと他理論との関連性
3. 宮永博史の7つの法則
4. 東西思想の統合的理解
5. 創意性理論：循環法則
6. 創意性理論：トリーズ (TRIZ)

7. 創意性理論：構造論

8. 『私・此処・今』のパラダイム

9. 時間・空間・人間の統合体系

10. 結論および現代的含意

11. 参考文献

セレンディピティとは何か

セレンディピティ (serendipity) : 偶然の発見、
予期せぬ解決策

- 科学・芸術・文化・愛など多様な領域で中心的役割
- 単なる運以上の意味、新たな秩序 / 革新の創出の基盤
- 混沌から、従来発見されなかった新たな循環的秩序を発見すること
- 今日の生存に必要で効果も大きい、創意的発見のメカニズム

セレンディピティと他理論との関連性

セレンディピティは多様な学問分野や理論と密接につながっています

- 複雑系理論との関連性 — 混沌から新たな循環的秩序を発見
 - 東洋思想（陰陽・五行・理気、天地人）と西洋科学（ニュートン・アインシュタイン・量子力学）の双方で発見
- 時間・空間・人間の循環的秩序と深い関連
 - 創意性の開発と革新において中心的メカニズムとして作用
- 文化・芸術分野では実証的な近代理論への抵抗として表現
 - 多様な分野で共通する創造的発見の原理として注目される

宮永博史のセレンディピティ7つの法則

『セレンディピティの法則』で提示された、混沌から循環的秩序を発見する法則

1. セレンディピティは誰にでも訪れる

3. 初心者のように発想し、専門家のように実行する

5. 偶然のひらめきが湧くよう誘導する

7. 組織の結束を育てる

2. 無関係なものを関連づけてみる

4. 予想外を考える

6. 論理的思考をしつつ、その幅を広げる

出典：宮永博史『セレンディピティの法則』

東西思想の統合的理解

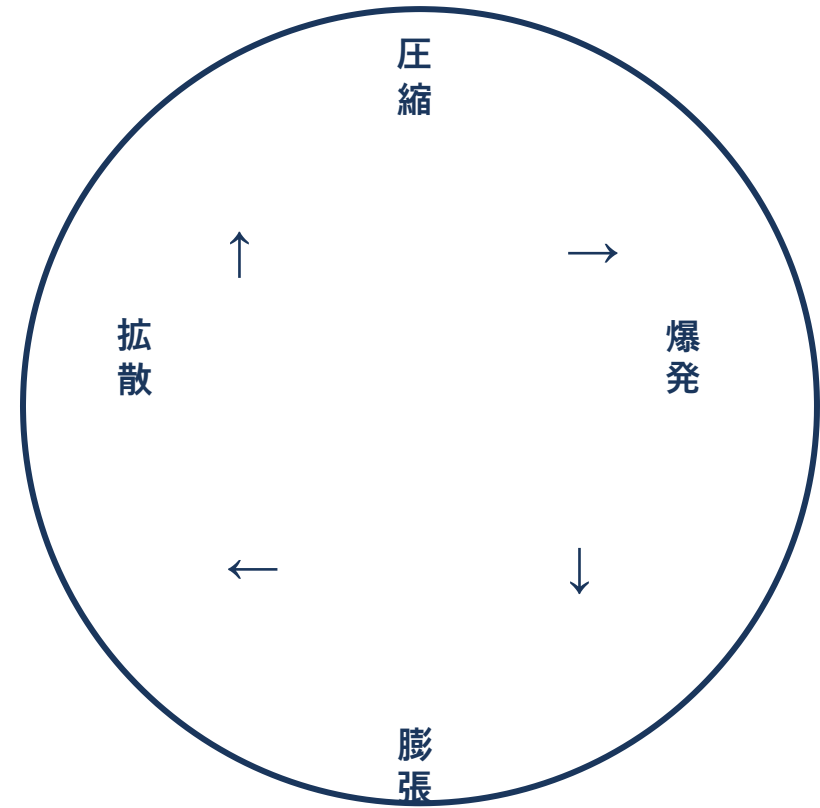


主要な理論的接点

- 東洋：陰陽・五行・理気 / 天地人、儒仏仙などにおいて循環パターンと調和を強調
- 西洋：ニュートン力学（絶対性）、相対性理論（相対性）、量子力学（互換性）の発展過程
- 統合：時間（今）、空間（此处）、人間（私）の三元構造で理論を統合可能

創意性理論：循環法則

- 自然科学的 / 哲学的原理：東洋の陰陽五行、地水火風などと西洋の科学理論に共通して見られる循環パターン
- フラクタル構造：原子から銀河まで、見える物質から見えない精神領域まで、同一の循環パターンが反復する
- 基本メカニズム：圧縮・爆発・膨張・拡散の循環が、あらゆる自然現象と創造過程の根本原理
- 創意性との関係：共通パターンを発見することで創意的な解決策を導出可能
- 現代的応用：工学・芸術・経営など多様な分野で革新の道具として活用



万物循環の基本パターン

創意性理論：トリーズ（TRIZ）

トリーズ（TRIZ）：革新的問題解決のための体系的理論

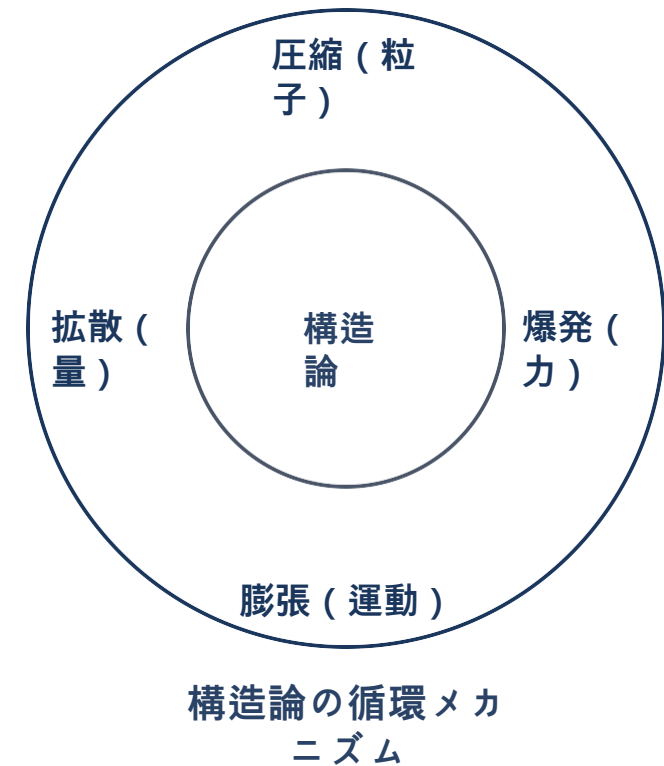
- ロシアのゲンリッヒ・アルトシュラー（Genrich Altshuller）が開発
- 世界中の特許分析により、40の創意的問題解決パターンを導出
- TRIZはロシア語『Teoriya Resheniya Izbretatelskikh Zadach』の略
- 妥協や二者択一ではなく、『矛盾の解決』を通じた革新の創出
- サムスン、ポスコなど韓国の先端技術企業の革新基盤
- 問題の中に隠れた矛盾を発見し、創意的に解決
- 矛盾は循環のなかの対称性（時間・空間）から生じる

韓国型トリーズの特徴

- 時間と空間の分離による矛盾解決に重点
- 例：時間分離 — 間欠的な給水により、通電中の地下鉄を清掃
- 例：空間分離 — 円錐形構造で雨水は通しハイヒールは防ぐ

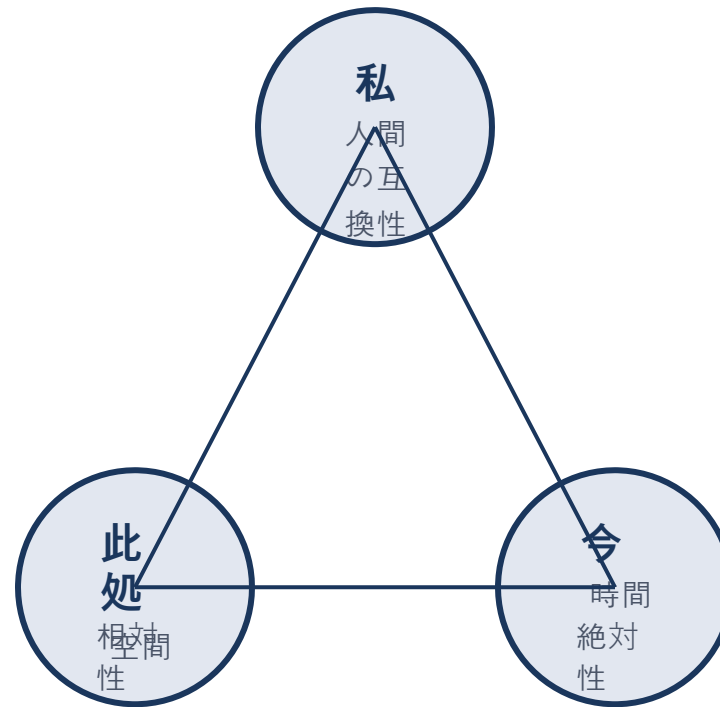
創意性理論：構造論

- 循環法則・トリーズの長所を統合した理論
- 圧縮・爆発・膨張・拡散の循環過程を『構造』という概念で一元化
- 循環法則で木火金水土として、あるいは圧縮・爆発として表現された力を、機械工学的用語で明確化
- 事物・事件の構造的な歴史解釈が可能（例：アレクサンドロス、始皇帝、ナポレオンの成功）
- 内部と外部の二重対称構造を通じて均衡をとる構造として、互換性を生成



『私・此処・今』のパラダイム

セレンディピティの核心構造：人間（私）・空間（此処）・時間（今）の三者構図



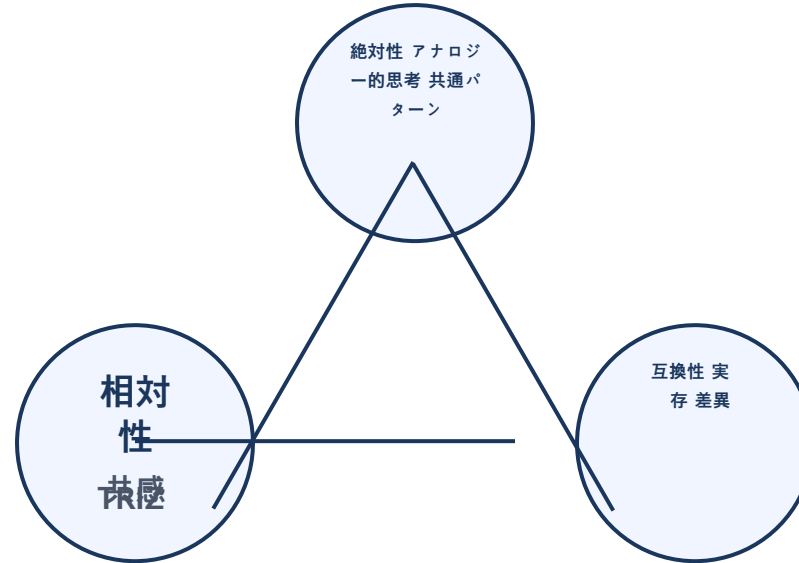
時間・空間・人間の統合体系

「私・此处・今」は人間・空間・時間の三元構造として、多様な理論体系と対応します

区分	今（時間）	此处（空間）	私（人間）
次元	1次元	2次元	3次元
図形	線	面	立体
特性	絶対性	相対性	互換性
創意性	循環法則	TRIZ	構造論
科学	ニュートン物理学	相対性理論	量子力学
力学	五行	陰陽	三才
セレンディピティ	共通パターン	共感	実存

※ 東洋（五行・陰陽・三才）と西洋（ニュートン・アインシュタイン・量子力学）の理論体系が統合的に対応します

理論間の関連性の分析



- 絶対性（アナロジー的思考 / 共通パターン）・相対性（共感）・互換性（実存 / 差異）の三角構造として統合可能
- あらゆる創意性理論、東西の思想がこの構造の中で相互参照・融合する

結論および現代的含意

研究の結論

- セレンディピティは多様なフレーム / 理論を包含する創意性の根源的基盤
- 「私・此处・今」のパラダイムはあらゆる革新的発見の根幹
- 東洋と西洋の思想、科学理論、創意性理論が三角構造（絶対性・相対性・互換性）として統合される

現代的含意

- 個人：実存的自己認識、環境的文脈、今への集中を通じた創意的問題解決力の向上
- 組織：セレンディピティに基づく革新文化とシステムの構築による持続可能な成長の実現
- 社会：時間・空間・人間の統合的理解を通じた文明の新たな進化方向の提示

セレンディピティは偶然のように見えるが、実は混沌の中で発見される新たな循環的秩序である。アナロジー的思考（共通パターン）、共感（相対性）、実存（互換性）のメカニズムを通じて創意的革新が実現される。

参考文献

セレンディピティおよび創意性関連文献

- 宮永博史（著）『セレンディピティの法則』、セレンディピティ現象と7つの法則に関する分析
- アルトシュラー、ゲンリッヒ（著）『TRIZ：創意的問題解決理論』、創意的問題解決のための40の原理
- 呉光吉（著）『循環法則とフラクタル構造』、循環法則に関する体系的研究

東西の哲学および科学の古典

- 『黄帝内経』、五行と陰陽に関する古典医学書
- ラカン、ジャック（著）『精神分析の四基本概念』、構造主義的精神分析
- エックハルト・トール（著）『ニュー・アース（今の力）』、「今」に関する実存的解釈

学術研究および現代理論

- キム・ドンリョル（著）『構造論の原理と実際』、循環法則とTRIZを統合した構

私・此処・今としてのセレンディピティと 地域文化

濟州文化を中心としたセレンディピティ理論と地域文化研究に関する
学術プレゼンテーション

2025年7月7
日

目次

- 1 セレンディピティ
とは何か
- 2 地域文化研究のブルーオーシャン、セレンディピティ
- 3 文化理論の統合的
アプローチ
- 4 済州文化の言説とセレンディピティの3つの利点
- 5 済州文化分析：セレンディピティの共通パターン
- 6 済州文化分析：共感と私・此処・今
- 7 結論および
示唆点

セレンディピティとは何か

- セレンディピティの定義：偶然の中に秩序を捉える創造的発見
混沌から隠れた秩序を明らかにする、偶然の発見の創意的過程
- 「私・此处・今」の時間・空間・人間の関係性分析
時間（今）、空間（此处）、人間（私）の枠組みを通じて地域文化を新たに捉える視点
- 文化研究における創意性・感応性・偶然性の強調
セレンディピティの手法は、従来の演繹的方法と異なり、文化の偶然性と感応を重視する

「セレンディピティは、文化がもつ創造的偶然性を通じて地域固有の価値を発見する新たな視点です。」

地域文化研究のブルーオーシャン、セレンディピティ：理論的背景

- セレンディピティが文化革新の「ブルーオーシャン」になりうる理由
創意的性格を拡大でき、文化の利点を明確に示し拡張できる新たなアプローチ
- 文化理論および地域文化の研究手法の転換の背景
アカデミズムでは危機だが市場ではブルーオーシャンとして浮上する文化理論。マルクス主義の崩壊以降、ポストモダニズムとポスト構造主義へと文化理論が分化
- 共感の産物としての文化理論の再解釈
文化は諸勢力の緊張と葛藤の関係を調整するために偶然に出現したセレンディピティのような第三者的存在であり、共感を通じた文化理解を強調

「地域文化の普遍性は、セレンディピティのように統計的方法を避けて演繹的方法を用いつつ、偶然性を含むアプローチから始まります。」

文化理論の統合的アプローチ

- 循環法則：社会の発展段階と文化の位置
経済（第1段階）→ 政治（第2段階）→ 文化（第3段階・膨張段階）
→ 宗教という循環構造で文化を分析
- TRIZ（トリーズ）：問題解決としての文化
文化は矛盾解決の過程であり、時間・空間・条件の分離を通じた創意的な問題解決方式
- 構造論：意味次元の文化分析
文化は価値・実在・人間関係で原理・概念を表現する中枢的な存在

循環法則

巨視的な文化
の位置

TRIZ

微視的な問題
解決

構造論

多角的な文化
分析

セレンディピティによる統合的文化理論のアプローチ

偶然性と感応を含む「私・此处・今」の地域文化分析

濟州文化の言説の新た

な希望 セレンディピティの

3つの利点

明確性

「神秘」という曖昧な概念よりも、感応的世界観によって濟州文化の価値を明確に説明します。セレンディピティは神秘性を保ちつつ、濟州文化の独自性を科学的に照らし出します。

拡張性

セレンディピティはフラクタルという無限反復の原理に基づき、無限の拡張が容易です。濟州の文化的要素が多様な商品やコンテンツへ拡張されうる理論的基盤を提供します。

効率性

小さな労力で大きな効果を生むセレンディピティの効率性は、濟州の文化的価値をより効果的に伝え、時を経ても持続する記憶を形成します。

「セレンディピティで濟州文化を分析するとは、共感・類比的思考・「私・此処・今」というセレンディピティの三要素で濟州文化を評価し、濟州文化がもつセレンディピティを拡張することです。」

濟州文化のセレンディピティ分析 ：共通パターン

- 自然の循環法則：濟州の地形的特性

漢拏山、360のオルム、天の川の形をした島の構造 — 自然に現れる宇宙の循環

- 陰陽の対照と調和：北濟州 / 南濟州、濟州市 / 西歸浦市

山（山）と海（海）の対比、南北36km・東西72km、360のオルム — 陰陽五行の自然的な具現

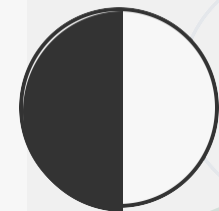
- 水と火の自動循環：漢拏山の火と太平洋の水

火山島として生まれた濟州島は、水と火の相互作用と循環を示す自然の教科書

- 文化・科学・創意性の連結：五行と地水火風の調和

濟州の三多（三多）と五多（五多）は、地水火風と陰陽五行の自然的

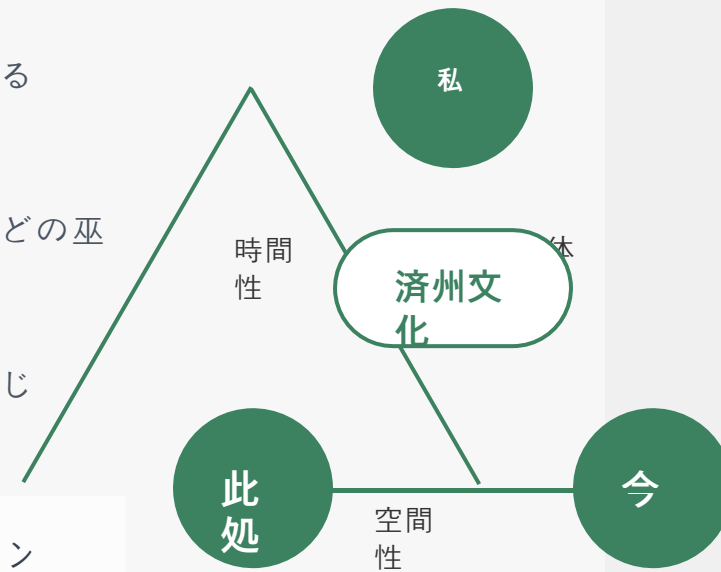
「濟州島は、宇宙が水と火、陰と陽の無限の反復から成っていることを示しながら、水と火、陰と陽を仲裁する宇宙において人間の地位を示している。」



濟州文化のセレンディピティ分析：共感と「私・此処・今」

- 濟州の自然・人間・時間・空間が交感する文化
濟州の自然は常に人間の仲裁を必要とし、四季の移ろいとともに関感する文化を形成
- 伝統家屋、オルレ、巫俗信仰
ア共同体性とバツコリに分かれた家屋構造、オルレの道、霊登ハルマンなどの巫俗信仰は、濟州ならではの共感文化を表現
- 「私・此処・今」に代表される主体的・実践的な意味
濟州文化は、弥勒信仰や祖先崇拜思想に内包されたフラクタル構造を通じて、自然と人間の調和を追求

「濟州文化は独自の文化をもちながらも、韓国固有の文化が多く残るセレンディピティの宝庫（宝庫）です。」



結論および示 唆点

- アイデンティティ確立と産業化の核としてのセレンディピティ
セレンディピティ的研究は、済州文化のアイデンティティの危機を解消し、地域文化の観光資源化の新たなパラダイムを提示します。
- 普遍性・創意性・連結性の強調
地域固有性を超え、普遍的価値とつながる創意的解釈によって、地域文化の新たな競争力を発見します。
- 地域文化の未来的方向の提示
感応理論に基づくセレンディピティの手法は、済州文化のみならず、あらゆる地域文化の研究と活用に必要な方法論を提供します。

「セレンディピティは単なる偶然ではなく、「私・此处・今」という文脈の中で発見される創造的秩序です。済州文化は、このセレンディピティを通じて新たに解釈されるとき、真の価値を発揮します。」

濟州のセレンディピティと濟州 文化

自然・神話・社会・科学・文化が調和する濟州で見出す、偶然と創意性の美しさをご紹介します

。



目次

濟州のセレンディピティ
と濟州文化

1
2

- 1 セレンディピティとは？
- 2 濟州のセレンディピティ概要
- 3
- 4 自然の中の濟州セレンディピティ
- 5 幸運としての濟州セレンディピティ
- 6 創意性としての濟州セレンディピティ
- 7 科学としての濟州セレンディピティ
- 8
- 8 文化としての濟州セレンディピティ
- 9 創意的思考でつくる7つの方法
- 10 結論

セレンディピティとは？

セレンディピティ（Serendipity）とは、思いがけないきっかけや偶然、あるいは運命的な出会いによる創意的発見を意味します。

済州島では、さまざまな次元（自然・神話・文化など）でセレンディピティが現れます。循環する自然の理、愛と幸運の象徴、創意的発見の過程が、済州の文化と風景の中に溶け込んでいます。



偶然と発見の島、
済州島

済州のセレンディピティ概要

済州のセレンディピティは、自然・愛・幸運・創意性・科学・文化において実践的に現れ、それぞれ独自のかたちの偶然・発見・循環の法則・革新性をもっています。

済州島では、自然を基礎に、愛と幸運・創意性・科学・文化が互いに影響を与え合いながら循環する構造をなしています。



自然 — 漢拏山とオルムの宇宙的循環



幸運 — 平和と機会の島



科学 — 環境適応と持続可能性



愛 — 三姓穴と婚姻池の伝説



創意性 — 済州の民俗と日常の知恵



文化 — 共同体と済州精神



 済州島の風景

私・此处・今としての済州セレンディピティ

自然の中の濟州セレンディ ピティ

濟州の自然は宇宙的循環の法則を示しています。天の川を思わせる地形、漢拏山を中心に広がる360のオルムは、まるで宇宙の縮図のようです。

濟州には陰陽の調和を示す「水の道」と「火の道」があります。水の道は類比的思惟を、火の道は熱い共感を呼び起こし、自然と人間の調和的な関係を象徴します。

挾才窟、天帝淵の滝、城山日出峰など、濟州の自然のセレンディピティは、地形的特性と神話的想像力が結びつき、独特な文化的価値を生み出します。

 濟州のオルムの風景

水の道

翰林公園 → 田房山 → 龍頭岩 → 天帝淵の滝 → 正房の滝

火の道

濟州民俗自然史博物館 → 万丈窟 → 城山日出峰 → 山君不離

濟州の自然に見出される循環の原理と類比的パターン

愛としての濟州セレンディ ピティ

濟州は神話的伝説、三姓穴、婚姻池、トルハルバンなど、愛の象徴と新婚旅行地としての魅力が結びついています。

漢拏山の火と太平洋の水、北濟州と南濟州の陰陽が調和をなす濟州の地形そのものが愛のセレンディピティを宿しており、徐福伝説にまつわる三姓穴と婚姻池の物語は、東北アジアの美しい愛の物語として伝えられています。



 濟州島のトル
ハルバン

濟州の愛と幸運を象徴するトル
ハルバン

幸運としての濟州セレンディ イピティ

濟州島は幸運と平和の島として知られています。ゴルバチョフ、ブッシュ、楊尚昆が濟州を訪れ、冷戦解氷の濫觴となりました。



徐福伝説と三姓穴 — 不老草を求めてやって来た徐福の物語



馬の文化 — 天馬と呼ばれる濟州の馬の歴史的価値 / 海女文化 — 経営の技術と高



い所得の象徴 / トルハルバンと雪門台ハルマン — 濟州の守護神



 濟州の
海女

濟州の幸運と機会の象徴、海
女文化

創意性としての濟州セレンディピティ

偉大な発見や問題解決の始まりは、一見無関係に見える事物の間に共通のパターンを見出すことにあります。濟州島はこうした類比的思惟と創意性の宝庫です。



石・風・女の文化に見出される新儒家的創意性



トツ通シ（豚小屋兼便所）、山岱（墓を囲う石垣）、ドゥルム石など、伝統的構造物に込められた問題解決の知恵



共同体に基づく協業と知識共有の文化的伝統



オルレ道、草家、馬の文化などに見られる革新的な解決策

 濟州の石垣道

 濟州の草家

 濟州の海女

濟州の日常に宿る創意性の痕跡

科学としての濟州セレンディ イピティ

濟州島の環境適応の方法は、独自の科学的思惟と持続可能な解法を示しています。
陰陽五行と地水火風の原理が、濟州の自然環境と日常生活に深く浸透しています。

陰陽五行の体系 — 三多（石・風・女）と五多（三多＋干ばつ＋馬）の科学的な連関



漢拏山とトルハルバン — 宇宙生成の中心軸と天文学的意味



石垣と水の管理 — 風穴、雨水利用など持続可能な科学技術 / カルオツ（柿



渋染めの衣）、バリョン、畑踏み、蚕など自然科学的な生活の知恵



 濟州の
石垣

「濟州は新儒家思想を活用し、早くから濟州島を宇宙の象徴とみなす科学的思惟を持っていた」

文化としての済州セレンディ ィピティ

神話、ゲメマシム、スヌルム、七頭堂グッなどの民俗と共同体を通じて、済州の循環性・開放性・世界性と現代的な創意文化が融合しました。

済州の文化は、自然と神話、共同体の知恵が一つに結びつき、独特なセレンディピティを形成します。ハルマンや海女の現代的意味と集団的創意性の価値が、新たに照らし直されています。

雪門台ハ
ルマン

ブマシ（労働交換）

七頭堂グ
ッ

海女文
化

ゲメマ
シム

開放
性

スヌ
ルム

モドゥム草刈り（共同の墓地草刈り）



 済州の
海女

共同体文化の象徴、済
州の海女

創意的思考でつくる7つの方法

済州セレンディピティを実現する7つの段階

1

認識訓練

懷疑と、多様な角度から眺める視点転換の訓練

2

ゆとり

時間的・精神的・物質的なゆとりを通じた新たな試みと創造の基盤

3

開放的思考

多様性の尊重と外部との交流、共同的な包容

4

高度な情報の掌握

情報の洪水の中から意味のある情報を見出し、主体的に分析する

5

学習

学びと反復練習を通じて成熟した知恵に到達する過程

6

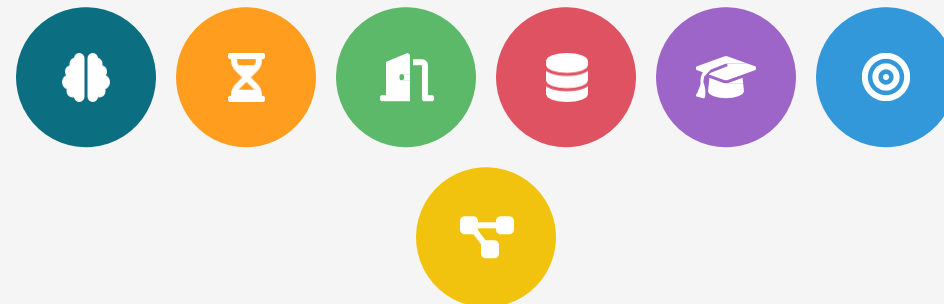
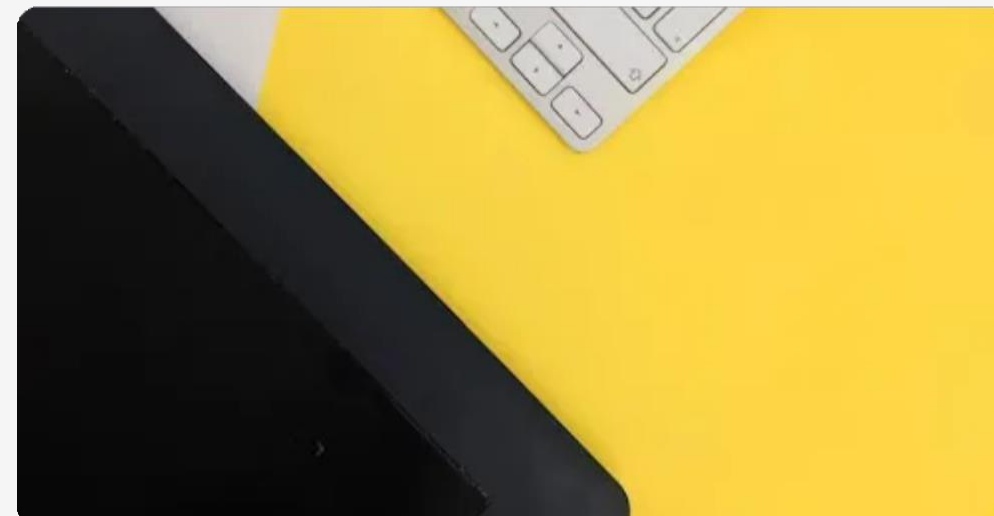
集中

選択と集中、情熱と没入を通じた創造と革新

7

ロジカルシンキング

多様なアイデアと発想の論理的な体系化と構造化



結論

濟州は偶然を機会へと導くセレンディピティの島です。自然の循環法則、愛と幸運の象徴、創意的思考の源泉が調和するこの地で、私たちは新たな可能性を見出します。

多様な価値と経験は、濟州が未来の創意エコシステムを先導するモデルであることを示しています。7つの創意的思考の方法を通じて、私たちは皆、セレンディピティを日常で実現できます。

「濟州のセレンディピティは、自然と文化の共通パターンに見出される偶然と創意の循環です。」



濟州文化のセレンディピティ的な再照 明

私・此処・今としてのセレンディピティ
と濟州文化の創造

発表者：【氏名 / 所属
】 2025年7月7日



目次

1. 研究の背景および目的
2. 21世紀の文化の時代的特徴
3. 済州文化の実存的・構造的分析 ― 島の特性
4. 済州文化の実存的・構造的分析 ― 自然条件
5. 済州文化の実存的・構造的分析 ― 地政学的位置
6. 済州文化の歴史的変遷
7. 共感と類比的思惟を通じた文化の拡大
8. セレンディピティと済州文化の創造
- 2 9. 結論および示唆点



研究の背景お よび目的

本研究は、済州文化の固有性と変化、そして「セレンディピティ（Serendipity）」の観点からの文化創造の可能性を再照明する。済州島の独特な社会的・歴史的文脈に実存的・構造的分析を通じて接近し、現代社会に適用可能な文化拡大の方策を提示しようとする。



21世紀の文化の時代的特徴

- 21世紀は文化の時代：多様な文化間の出会いを通じた新たな文化の創出
- ハンティントンの「文化が重要である」という命題が、私たちの暮らしに深く根づいている
- 文化の核心はアイデンティティの反映：自らのアイデンティティが発揮されてこそ、真の名品文化へと飛躍する
- グローバル化・情報化・科学技術の発展による文化的多様性と創造性の強調
- 済州文化：韓国と同じでありながら異なり、異なりながらも同じという独自のアイデンティティを有する



濟州文化の実存的・構造的 analysis — 島の特性

濟州島は島ゆえの孤立性と自発的な断絶という特性をもつ。かつては流刑地、近代には離れるべき地、そして現在では能動的に文化を求める「パラダイス」の意味へと変化した。

孤立 (Isolation)

受動的な特性 不満と不幸の態度
過去の濟州島

断絶 (Disconnection)

能動的な特性 感謝と幸福の態度
現代の濟州島

ガラパゴスのように孤立していた濟州島が、現代社会ではむしろ自然環境と文化的固有性が保存された価値ある空間として再解釈されている



濟州文化の実存的・構造的分析 — 自然条件

漢拏山・オルム・溶岩洞窟などの独特な自然環境は、かつての災いから祝福へと認識が変化した。痩せた自然が共同体意識と自生力、そして独特な文化資産の原動力となった。

- 東西73km、南北31kmの小さな島に、368のオルムと160余りの溶岩洞窟が分布
- 漢拏山を中心に高度に応じた多様な気候帯が形成され、年平均14℃の温かな気候
- 黒褐色の火山土という痩せた環境が、住民の絶え間ない努力と共同体意識を強化



漢拏山



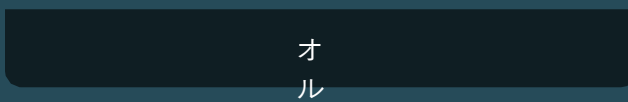
オルム



溶岩洞窟



漢拏山



オルム（寄生）



溶岩洞窟



済州文化の実存的・構造的分析 — 地 政学的位置

済州島は韓国・中国・日本の中央部に位置し、東アジアの海上交通路の中心に位置している。

- ロシアと中国、日本と東南アジアを結ぶ戦略的要衝
- 歴史的に多様な外部勢力の影響を受けた（元朝、日本など）
- 日本統治期には、日本本土を守るための最後の砦として利用された
- 朝鮮半島の最南端という地政学的特殊性が、済州文化発展の重要な動因とな

 済州島の地政学的位置



濟州文化の歴史の変遷

濟州島は多様な歴史的事件を経験しながら、独特な文化的アイデンティティを形成してきた。苦難と試練の歴史が、現代では文化的資産として再解釈されている。

古代～中世

耽羅国の時代から元朝の支配
まで

朝鮮時代

流刑地としての濟州、李在
守の乱

日本統治期

日本の軍事基地、住民
の移住

現代

4・3事件、観光産
業の発展

過去

- 孤立した島、流刑地としてのアイデンティティ
- 外部から見捨てられた地であるという認識
- 痛みと傷の場所
- ダークツーリズムの対象

現在と未来

- 世界的な観光地としての価値の再発見
- 文化的固有性と多様性の承認
- 癒やしと希望の場所としての再生
- 苦難克服のストーリーを通じた文化の創造



共感と類比的思惟を通じた文化の拡大

共感 (Empathy)

現代社会が切実に必要とする価値であり、脳科学におけるミラーニューロンの発見によって実証的に裏づけられている

- 実存と構造把握の根拠
- 濟州島の異文化

類比的思惟 (Analogical thinking)

中国哲学の相関的 (correlative) 思惟と類似し、連想と比較を通じた思考の様式

- 東洋的な思惟様式との結びつき
- 『莊子』の寓言 (ぐうげん) の方法
- 濟州島の自然と歴史の類比的な対照

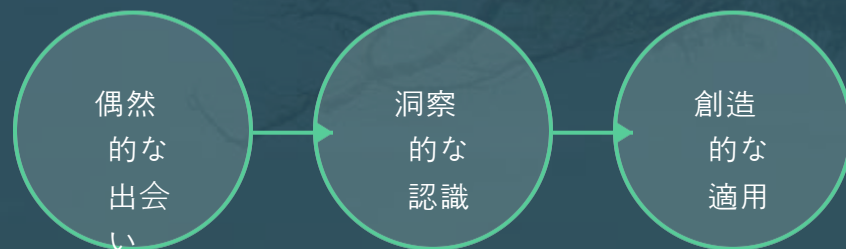
ストーリーテリングと文化の拡張：共感と類比的思惟は、濟州島の歴史と地理を基盤としたストーリーテリングの生産に核心的な役割を果たし、これを通じて濟州文化の拡大と共有が可能となる



セレンディピティと済州文化の創造

セレンディピティ (Serendipity) とは？

- 探していたものとは異なる予期せぬ発見を通じて、新たな価値を創出する現象
- 偶然的な発見と洞察力が結合した創造的な過程
- 済州文化においては、歴史的な試練と外部の影響を肯定的な変化へと昇華させる過程



済州文化創造の核心要素

- 1 外来文化の主体的な受容：歴史的な外部の影響を独創的に変形し、済州ならではの文化へと昇華
- 2 逆境の創造的な転換：孤立と痩せた環境という不利な条件を文化的資産へと転換
- 3 アイデンティティの再構成：多様な外部の影響の中でも、済州ならではの固有性とアイデンティティを維持・発展
- 4 現代的な適用：済州文化のセレンディピティ的な特性を、現代社会における新たな価値創出のモデルとして活用



結論および示唆点

濟州文化の価値の 再発見

- 濟州島の実存的特性（島・自然・地政学的位置）が文化的固有性を形成
- 歴史的な苦難を資産へと昇華させた構造的変化の過程
- 濟州文化の癒やしの要素と共同体意識の現代的な活用可能性

セレンディピティ 的な創造の方向

- 共感と類比的思惟を通じた文化拡張戦略の開発
- 外来文化の主体的な受容と創造的な変形のモデルとしての濟州文化
- グローバルな文化遺産としての持続可能な成長の可能性

「濟州文化は、私・此処・今の観点からセレンディピティを通じて、過去の傷を現代の資産へと昇華させる文化的モデルとなりうる」



参考文献

- 発表資料および引用文献は実際の発表時に表記
- 姜文奎（2015）。『済州学概論』。済州：済州大学校出版部
- 金東潤（2018）。『済州文化の再解釈とセレンディピティ』。ソウル：学志社
- 洪吉童（2022）。「実存的観点から見た済州文化のグローバル化方策」。『韓国文化研究』、45(3)、78–96
- Roberts, R. M. (2020). Serendipity: Accidental Discoveries in Cultural Studies. London: Routledge
- Smith, J. & Brown, A. (2021). "Cultural Identity and Existential Approaches to Heritage Preservation." Journal of Cultural Studies, 28(2), 112-134

